

令和6年 12月 3日

府中市議会議長
手塚 としひさ 様

府中市議会 市政会
会長 横田 実

行政視察報告書

行政視察を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

1. 日 時 令和6年10月16日（水） ～ 令和6年10月18日（金）

2. 視察地及び調査事項

- A. 10月16日（水）福岡県 北九州市「SDGs 未来都市について」
- B. 10月17日（木）山口県 下関市 「消防団員活動力強化事業について」
- C. 10月18日（金）山口県 宇部市 「スポーツコミッションについて」

3. 視察者

- （会長） 横田 実 （幹事長） 松村 祐樹
- ・ 比留間 利蔵 ・ 佐藤 新悟 ・ 秋山 としゆき
 - ・ 大室 はじめ ・ 宮田 よしひと

4. 視察内容詳細について

※別紙の通りとなります。

A. 福岡県 北九州市 「SDGs 未来都市について」

視察日 10月16日(水)

視察時間 13時30分～14時40分

視察場所 北九州市役所内の会議室にて説明

説明員 ・北九州市議会事務局長 岩田光正 様
・北九州市 政策局政策部 政策調整担当課長 丸内佳一 様
・北九州市 政策局政策部 政策課 政策調整担当係長 城水裕美子 様

出席者 横田実、松村祐樹、比留間利藏、佐藤新悟、
秋山としゆき、大室はじめ、宮田よしひと

① 北九州市より市の紹介

～歓迎挨拶～

本日は、SDGs の取組の視察との事でありがとうございます。

北九州市は、工業都市のイメージが強いですが夜景や海に面しており、食についても魚が魅力的です。

また、九州初の 100 万都市の政令都市となり、昨年、市政 60 周年を迎えました。そして、過去には都市の成長の過程で公害対策に努め克服してきた経緯があります。未来に向けた取組を先駆けて体現しておりますので、府中市の取組の一助となればと思います。

② 府中市議会市政会横田会長より挨拶

本日は、市政会の会派視察に快く受け入れていただき誠にありがとうございます。

府中市は東京都 26 市の中では、比較的都心に近い地に位置しております。都全体でちょうど中心の辺りとなります。

また、本市は、昭和 29 年に 1 町 2 村が合併し、合併当時は人口が約 5 万人でしたが、現在では約 26 万人の人口を有しております。そして、本市の特徴としては、集客力を有している JRA の東京競馬場がありますが、北九州市さんにも小倉競馬場があるとの事で親近感を感じている所であります。

また、我々の市議会は、定数 30 名であり、私たちは 7 名の会派で活動している所です。

本日は、市政を前進させるために北九州市さんの先進的な SDGs 事業の見識を深めていきたいと思っておりますのでご教授お願いします。

③ 事業内容の説明

工業都市として発展してきたが、激甚な公害が発生し 1980 年に公害克服し現在に至っている。公害克服の過程には、環境改善だけではなく環境に配慮しつつ生産性を向上させた新たなニーズを開発して環境と経済の両立を図り環境先進都市や SDGs 先進都市にも選ばれている。

令和 6 年 3 月に基本構想を策定し、新ビジョンのもと SDGs を進め、市の都市像として、地域などの繋がりや情熱と技術により一歩先の価値観を体現するグローバル挑戦都市として未来に向かって進んでいる。一人一人が意識を上げて行く事が大事である。

3 つの重点戦略として「安らぐまち」の実現、「稼げるまち」の実現、「彩りあるまち」の実現を戦略に位置付けている。特にグリーンインパクトによる日本最大のグリーン産業拠点として、国内外に強力なインパクトを進め環境と経済の好循環に努めている。また、カーボンニュートラルや生産年齢人口減少による対策、更には、先進的な介護システム「在宅版北九州モデル」の構築を目指している。

北九州市の取組は、主に SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）を推進する企業の創出のためサステナブル経営認証制度を進めている。また、全体的に社会課題解決に若者の力を期待している。その為、Z 世代課を創設し、新時代のチャレンジを応援する取組をしている。

④ 主な質疑応答

Q.Z 世代課の主な事業と若い職員さんについて教えてください。

A. 課長職は北九州市で採用している。20～40 代 若者の挑戦を応援している。プレゼンを聞き審査し若者の声を聴く努力をしている。若者の意見、声をしっかり聴き意欲を高めパートナーとして施策につなげている。

Q.SDGs の取組として幅広い分野で影響が出てくると思うが、市が目指す所について詳しく教えてください。

A. 豊かさを体現していただく事が大事である。

また、重点プロジェクトの「稼げるまち」を目指し、成長と幸福のサイクルを進めて行く。

Q.カーボンニュートラルを進めて行く中で民間企業との連携や協定があるのか。

A.カーボンニュートラルに関してわかっている範囲では、そのような事は聞いた事がない。

Q.SDGs への関心について

A.教育面にて本を配布し学習しているとともに理解を求めている。

⑤ 視察に当たっての所感

北九州市は、過去の公害を克服してきた経緯を鑑みると環境面の改善や社会課題解決に向けて市民の意識も高いのではないかと受け止めたところである。例えば、本市と比較してみると再生可能エネルギーの導入など規模の乖離は見られるが、食品ロスや食品資源リサイクルなど行っているところは、同じようなところも見受けられました。

その他にも企業のスタートアップや若者の声を取り入れるなど、企業、市民全員でSDGsに取り組んでいく意気込みが大変参考になり意義ある視察であったと感じている。また、Z世代と言われている世代間の意見の取り入れ方や施策へつなげる手段も大変参考になった。

北九州市役所視察

令和6年 10月16日(水)



B. 山口県下関市 「消防団員活動力強化事業について」

視察日 10月17日(木)

視察時間 10時00分～11時30分

視察場所 下関市消防局中央消防署内の会議室にて説明

説明員 ・(挨拶)下関市消防局次長 有川昌義 消防監
・下関市消防局総務課主幹 中山文男 消防司令長
・下関市消防局警防課主幹 沖野展広 消防司令長
・下関市消防局警防課 坂本和憲 主査

出席者 横田実、松村祐樹、比留間利蔵、佐藤新悟
秋山としゆき、大室はじめ、宮田よしひと

① 多比良議長より歓迎のご挨拶

本日は災害現場における消防団員の活動力強化事業についての視察との事ですが、近年は全国各地で地震や豪雨による大きな自然災害が多発しております。災害の程度も激甚化し、被害も拡大しております。記憶に新しい能登半島地震の被害も記憶に焼き付けられていると思いますが、このような大きな災害の初動に対して迅速にあたっているのが、地元に着した消防団であります。一方で全国的に消防団員が減少しており、下関市におきましても同様に減少が続いており、歯止めをかけることができないなか、団員の増加に向けた取組と、災害対応の強化を進めております。

② 府中市議会市政会横田会長よりご挨拶

本日は、お忙しい中にも関わらず視察の受け入れありがとうございます。私たち府中市は、東京都の地図の中心に位置しており、市内には東京競馬場を有しております。府中市は東京消防庁の管轄であり、会派の所属議員の多くは消防団経験者であります。本市も消防団員定数420名を有していますが、同じく団員数の減少が課題であります。今後は団員数の確保とやりがいをもって消防団活動ができるように、私どもも考えていかなければならない。本日ご説明いただき、下関市消防局の取組を参考にさせていただき、本市に持ち帰り生かしていきたいと思っております。

③ 事業内容の説明

改めて下関市消防局の現況の説明を受ける。下関市消防団は、平成17年に1市4町が合併し、1団・5方面隊・31分団・123部で組織している。団員数は、定員1,977名のところ実員1,630人うち女性70人、市職員132人で充足率は82.4%となっているが、年々団員数も減少

し高齢化も進んでいる。これは人口の流失、少子高齢化、サラリーマン家庭の増加などが減少の理由であり、またコロナ禍で活動が停滞し団員の募集活動が出来なかった事も大きな要因である。そこで、消防団員入団促進、消防団の力向上モデル事業等の説明を受ける。

- 1) 消防団員入団促進の取組として、国の事業として平成23・24年度に下関市消防団PRキャンペーンを実施し、消防団の存在と活躍を市民に広く認知してもらうと共に、消防団員の入団促進を図るために2年度にわたり13名を雇用した。業務内容としては、消防団員に対するアンケート調査やキャンペーン活動、マスコットキャラクターの制作等のPR活動を行った。
- 2) 民間企業と連携し、自動販売機を消防団PR媒体として活用する「消防団PR等支援自動販売機」の取組は、売上げの約20%が下関市に寄付されるもので、現在市内に11カ所設置済みである。この寄付金で消防団装備の充実を図る。その他にも、消防庁の消防団加入促進支援事業では、実写版動画の制作や映像配信、募集ポスターの制作等を行い、多くの市民に消防団情報が届いたと認識している。
- 3) 「消防団の力向上」モデル事業は、ドローンを複数購入し、消防団の訓練を実施することで消防団員の知識の習得、地域防災力の向上、消防団員の確保が期待される。事業内容としては、操縦者養成訓練や研修を行い、ドローン5機を使用し計20名が受講した。この取組により、実際の火災現場や水難救助訓練等にも活用されている。

その他にも、下関市消防局ではSNS・HPを活用し、消防団の役割を市民に周知することに努めると共に、地域の大学生等の積極的な受け入れをする「学生消防団活動認証制度」、地域の事業者と連携した取組として「消防団協力事業所表示制度」を実施している。また、女性消防団の活動も活発であり、イベントでのPRと女性団員を活用したCM制作だけではなく、消防操法大会にも参加し技術向上にも努めている。

④ 主な質疑応答

- Q. 消防ポンプ車24台をはじめとする小型ポンプ車や特殊車等を有しているが、各団のポンプ車の使い分けについて伺いたい。
- A. 地域の特性に応じてポンプ車を配置し、狭隘道路などは小型ポンプ車等を使用するなど現場の状況に応じて使い分けしている。
- Q. 消防団員向けアンケートが実施されているようだが、どのような内容なのか。
- また、そのアンケートによって、消防団の活動に生かされたか。
- A. 入団時の年齢、入団したきっかけ、消防団員になってからのメリットとデメリットなどを調査し、主な内容としては地域や社会に貢献できた等の意見があった。その調査により、消防団互助会の活動やスポーツ大会など実施し意見を反映している。

Q. 女性消防団員の配置先についてはどうなのか。

A. 各分団に配備し、活動については各分団の判断に任せている。PR活動で女性消防団員を活用する際には、その都度お願いをしている。

Q. 市の職員が多く消防団員として活動しているが、何か取組をしているのか。

A. 毎年、市職員の新規採用の際に消防団の説明をし、活動を周知している。

Q. 下関市の消防団員の特徴的な役割はあるのか。

A. 焚火による火災が多いため、分団が火災現場に先着することがあるので、分団が先に消火活動することが多い。

⑤ 視察に当たっての所感

全国的な課題となっている消防団員のなり手不足は、様々な取組を行っている下関市消防団でも同様である。この課題については、少子高齢化やサラリーマン世帯の増加によるもので、数年に及ぶコロナ禍で活動が制限されたことが拍車をかけた。その中でも、下関市消防団は消防団活動のPRやドローンを活用した消防団員の技術向上、民間事業者との連携を進めると共に女性消防団員の活用も積極的に進めている。本市においても女性消防団員の募集が始まっており、女性消防団員の受け入れ態勢の構築にも参考になる説明をいただいた。社会情勢の変化や、日本列島を襲う自然災害が増加する中で、ますます消防団の役割が増していると感じる。その上で、下関市消防団活動力強化事業についての視察は、本市の消防団体制の強化に向けて、大変有意義な視察となった。

下関市役所 令和6年10月17日（木）



C. 山口県宇部市 「スポーツコミッションについて」

視察日 10月18日(金)

視察時間 10時00分～11時30分

視察場所 宇部市役所内の会議室にて事業説明

説明員 ・(挨拶) 宇部市議会事務局議事総務課 課長 吉武智子 様
・宇部市観光スポーツ部スポーツ振興課 課長 明德義和 様
・一般社団法人 宇部市スポーツコミッション 事務局長 能美 朗 様

出席者 横田実、松村祐樹、比留間利蔵、佐藤新悟
秋山としゆき、大室はじめ、宮田よしひと

① 宇部市議会事務局議事総務課 課長 吉武智子 様より歓迎のご挨拶

本日は遠路はるばる「緑と花と彫刻のまち」宇部市にお越しいただきまして歓迎申し上げます。宇部市は石炭産業を中心に発展してきましたが、文化の面ではときわ公園で開催する野外彫刻展が世界一長く続いているとして、本年3月にギネス登録されました。また、まちじゅうエヴァンゲリオンの取組に力を入れており、地元食材を使用したまちじゅうエヴァグルメフェアをはじめ、JRと連携したスマホスタンプラリーなど行っています。

本日は「スポーツコミッションについて」説明をさせていただきますので、所期の目的が達成されることを祈念して挨拶とします。

② 府中市議会市政会横田会長よりご挨拶

本日は行政視察にご協力いただき、心から感謝申し上げます。府中市は東京都の中心に位置しており、3億円事件で有名な府中刑務所や東京競馬場を有しています。昭和29年に一町二村が合併し、本年70周年を迎える本市は人口26万人を有し、スポーツタウンとしてラグビーのトップチーム「東芝ブレイブルーパス」や「サントリーサンゴリアス」が活動し、女子野球等が盛んであります。本市のスポーツ施策を推進するためにも、宇部市の「スポーツコミッション」の取組をご教授いただければと存じます。

③ 事業内容の説明

平成26年10月に山口県内で初のスポーツコミッションが宇部市に誕生し、体育スポーツ団体や商工会議所等の経済団体、スポーツクラブや民間企業、行政や教育委員会等と連携してスポーツを推進し、市民の健康につながる事業を行うことを目的に設立された。また、職員3名で誰もがスポーツに参画できるような事業を展開し、スポーツを通じたスポーツ人口の増加と地域活性化につながる取組を進めている。当コミッションは官民協働に構成されており、会員数は55団体に上る。そして活動実績としては、スポーツコミッションフェスタは毎年3,000名の来場があり、今年が目玉はMLB ジャパンと連携し、元メジャーリーガーの岡島秀樹氏やマック鈴木氏をスペシャルゲストとして招き野球教室を実施した。このイベントは好評で約5,000人の方が来場された。その他にも、トップチームを誘致し、子どもたちとスポーツを楽しむイベント「スポーツファンプロジェクト」、トップアスリートによる市民講演会、小中学校にトップアスリートを派遣する「夢授業」、観光とスポーツを融合させた「スポーツうべたん」、共生社会の実現に向けて「パラスポーツフェスタ」等を実施している。

④ 主な質疑応答

Q.スポーツコミッション設立後の効果はどうか。

A.市民の健康増進、人材育成、交流の促進、共生社会の実現の4つの柱をもとに事業に取り組み、官民連携事業がうまく機能している。

Q.なぜ、法人を設立するに至ったのか。

A.当初は財政的な独立を目指し設立した経緯があるが、現状は完全に独立できず、市の助成金と委託料で運営している。しかし、法人格取得により社会的信用も増すことにより、様々な団体と連携した取組ができている。

Q.今後の展望はどうか。

A.全国的にはツーリズム関係に強い団体が多いが、私どもは市民の健康増進等のインナー施策を中心に取り組んでいる。今後は合宿誘致等のアウター事業にも力を入れていきたいと思っている。

Q.トップチームの観戦にも力を入れているが、入場料などは発生しているのか。

A.設営等には関与していないが、市民観戦については市から委託され、プロチームのファンを増やす為にPR活動等の取組を行っているので、入場料については市民のみ無料としている。

視察に当たっての所感

宇部市のスポーツコミッションの取組については、行政とスポーツ協会、地域のスポーツ団体をつなぐ核となっており、スポーツ振興に向けた官民連携の取組が進められている。この仕組みを構築することで、地域の声が届きやすく、子ども達がスポーツに触れ、楽しさを感じてもらう為、柔軟な取組を推進していると感じる。一方で、財政面では課題が残っていると感じる。市の委託料や助成金等で運営している現状をどのように乗り越え、財政面で独立していくのか注目していきたい。宇部市は、スポーツ振興のみならず、エヴァンゲリオンや彫刻が街にあふれる等の継続した取組は、行政や市民の熱量を感じる視察であった。

宇部市役所 令和6年10月18日（金）

